

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第6部門第1区分
【発行日】令和5年1月18日(2023.1.18)

【公開番号】特開2022-190090(P2022-190090A)
【公開日】令和4年12月22日(2022.12.22)
【年通号数】公開公報(特許)2022-236
【出願番号】特願2022-176491(P2022-176491)
【国際特許分類】
G 0 1 N 3 3 / 5 3 (2 0 0 6 . 0 1)
【 F I 】
G 0 1 N 3 3 / 5 3 Q

10

【手続補正書】
【提出日】令和5年1月6日(2023.1.6)
【手続補正1】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項1】

20

検査パネルを使用して、食物過敏症が被験者のうつ病の症状の根底にあるかどうかを確認する方法であって、
複数の異なる食物調製物を、うつ病と診断された患者またはうつ病が疑われる患者から採取された体液と接触させる工程であって、前記接触させる工程は、前記体液からの免疫グロブリンが、異なる食物調製物の少なくとも1つの成分に結合することを可能にする条件で実施される、工程と、
複数の異なる食物調製物に結合した免疫グロブリンを測定して、前記食物調製物に対するシグナルを取得する工程と、
前記シグナルを、前記食物調製物についての性別階層化参照値と比較する工程と、
前記シグナルを使用して報告書を更新する、または、作成する工程であって、前記シグナルが第1のカットポイント値以上である場合、前記食物調製物は「陽性」食物であり、観察された前記シグナルが第1のカットポイント値未満である場合、前記食物調製物は「陰性」食物である、工程と、
患者が検査で陽性である食物の数を決定する工程であって、陽性食物の数を第2のカットポイント値と比較することで、食物過敏症が患者のうつ病の症状の根底にある可能性が高いかどうかを示す、工程と、を含む方法。

30

【請求項2】

前記検査パネルが、個々にアドレス指定可能な固相担体に固定化された複数の異なる食物調製物からなり、前記複数の異なる食物調製物のそれぞれが0.07以下の未処理p値、または、0.01以下の偽発見率(FDR)多重度調整p値を有する請求項1に記載の方法。

40

【請求項3】

前記複数の異なる食物調製物が、粗製水性抽出物または処理された水性抽出物を含む請求項2に記載の方法。

【請求項4】

前記固相担体が、アレイ、マイクロウェルプレート、マイクロ流体デバイス、ディップスティック、マルチウォールプレートのウェル、ビーズ、センサー、マイクロチップ、および、吸着性フィルムからなる群から選択される、請求項2に記載の方法。

50

【請求項 5】

うつ病の診断の指標として使用するための個々にアドレス指定可能な固相担体にそれぞれ結合された複数の異なる食物調製物であって、前記異なる食物調製物が 0.07 以下の未処理 p 値、または、0.01 以下の偽発見率 (FDR) 多重度調整 p 値を有する、複数の異なる食物調製物。

【請求項 6】

前記複数の異なる食物調製物が、アーモンド、トマト、タバコ、ニンジン、オレンジ、キュウリ、ブロッコリー、レタス、麦芽、カンタロープ、トウモロコシ、小麦、ハチミツ、チョコレート、オート麦、アボガド、ライ麦、イチゴ、カリフラワー、ベニバナ、茶、バナナ、カボチャ、緑ピーマン、バター、ソバ、米、大豆、グレープフルーツ、カキ、ビール酵母、モモ、甘蔗糖、牛乳、および、ホウレン草からなる群から選択される少なくとも 2 種の食物調製物を含む、請求項 5 に記載の複数の異なる食物調製物。

10

【請求項 7】

前記複数の異なる食物調製物が、ろ過された粗製水性抽出物または処理された水性抽出物を含む請求項 5 または 6 に記載の複数の異なる食物調製物。

【請求項 8】

前記固相担体は、アレイ、マイクロウェルプレート、ビーズ、電気センサー、化学センサー、マイクロチップ、または、吸着性フィルムである請求項 5 または 6 に記載の複数の異なる食物調製物。

20

30

40

50